

令和5年度三重県立公衆衛生学院学校関係者評価結果報告書

令和6年3月

1 学校関係者評価の実施

学校関係者評価の実施にあたって、令和6年3月14日に三重県立公衆衛生学院学校関係者評価懇話会を開催し、令和5年度を評価対象期間とする「令和5年度三重県立公衆衛生学院自己評価結果」について説明し、自己評価結果に対するご意見をいただきました。

評価結果は本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学院運営の改善に活かし、これらの質の向上に努めることとします。

2 学校関係者評価員

所 属	役職名	氏 名
三重大学大学院医学系研究科 基礎医学系講座幹細胞発生学分野	教授	山崎 英俊
公益社団法人三重県歯科医師会	副会長	福森 哲也
特定非営利活動法人三重県歯科衛生士会	会長	笹間 滋代
三重県立公衆衛生学院後援会	会長	堀木 ひろみ

3 学校関係者評価結果の活用

学校関係者評価結果及び自己評価結果については、ホームページにおいて公表します。

また、教職員は、今回の結果を活用し、教育活動及び学院運営等の質の保証と向上に努めていきます。

4 評価項目等に対する意見

別紙のとおり

別紙

	学校関係者評価員の意見	今後の取り組み等
(3)教育活動	<p>・臨床実習検討会について、各病院や医院の実習内容を共有してほしい。また、出席率が低いと感じるので、多くの指導者が出席できるよう工夫してほしい。</p>	<p>・検討会は各施設から実習内容も含めてご意見をいただく場としている。開催日時やZoom利用等の開催方法の検討も含め、実習内容をお互いが共有できる工夫もしながら有意義な会議としていきたい。</p>
(4)学修成果	<p>・卒業生の社会的な活躍や評価の把握については同窓会と連携してホームページを活用されており、昨年度より改善されている。</p> <p>・卒業研究など学会等で発表する機会があるとモチベーションの向上につながり、あわせて研究の質が向上すると考える。学内の発表会で助言等できることがあるかもしれない。</p> <p>・研究活動をしっかりして、県内の歯科衛生士の指導的な立場になれるような人材を育成してほしい。そのためにも、大学院への進学や学院の大学化を視野にいれてはどうか。</p>	<p>・引き続き、同窓会と連携し様々なツールを活用して把握に努める。</p> <p>・卒業研究など研究の成果を発表する機会を設けるよう、引き続き計画していきたい。</p> <p>・専門性の向上を図るとともに、豊かな人間性を育むことを念頭に今後も教育を行っていきたい。</p> <p>・今後、入試や卒後の進路、授業料等大学化による影響を様々な角度から考える必要がある。</p>
(5)学生支援	<p>・復職支援を行っているが人が集まらない。復職したい人がいないのか情報が届いていないのか。</p> <p>・学院ではリカレント教育を実施しないのか。</p>	<p>・引き続き、同窓会の連絡体制を活用して情報を届けるようにしていく。</p> <p>・三重県では歯科医師会、歯科衛生士会と一緒に、人材確保に向けて復職支援をどのようにしていくかを考えており、令和6年度歯科衛生士確保総合支援事業「みえ8020推進ネット」を進めていく予定である。今後、関係団体と連携し進めていくなかで検討していきたい。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会のほかに学生の支援等を行う組織があったほうがいいのではないか。 ・就職や国家試験のことなど、迷うことが多く、たびたび相談させていただき、精神的に支えていただいていたことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教務委員会では教務に関する事項だけでなく、学生指導に関する事項も協議する組織であることから現状維持していきたい。 ・今後も引き続き、学生に寄り添った指導を行っていく。
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・定員は増やさないのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化で受験する学生等の人数が減少している。また、県内の私立の養成校では定員が満たない状況である。現状の施設の設置基準を考慮すると定員を増やすことは難しい。